芦高新聞
発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6の3

新しい出発（たびだち）を祝う

―卒業生へ贈る―

今、この学校を去ろうとしている諸君の皆さん、とかく、この三年間を思い出してください。

高校入試のために一生懸命がんばったあの日々、そして自分の受験番号が掲示され、友と一緒に喜びあったあの一瞬、三日間の文化祭、県西三の定期戦で初めて試合に出場できた運動部の方々。また四月の青い空、また級友と親しめなかったクラスでおもしろくなかったこと、この三年間の信州・霧ヶ峰登山ばっさりと消えてしまって最下位で入って、級友と仲良くなり友情が深まったあの八月、県岩伝説の記念祭そしてよくがんばった応援の方々。またまた二月に恒例の耐寒マラソンで、トップで突っ走った人、最近元気に寒さもあの日、あの時下位で泣いた人。友と励まし合った九月に五日間行なわれた記念祭。EXPO70と感激された七一年。短い時間に部を休みがちで行った監督会。と

いかに上手に勉学できるか、下調べ、予習、復習をしっかりとやってください。

しかし、人、人、人のために振れて見学できなかった（ガ）あの日、今はもうあの頃の面影さえない。

四泊五日。定期がなかなか満たず、延期になってしまった自治会出である修学旅行は、東北地方へ。

最後の耐寒マラソン。もう走ることはないだろうと思い、がんばった最高学年。登校拒否も延期もなく、下位に入った人。

いつのまにか二年になっていた自分に、フット我に返る今年は最高学年。

EXPO70と感激された七一年。

短い時間に部を休みがちで行った監督会。と

とにかく脱線はつきません。まだ他に、種々なことがあったことだろう。私達は思っております。

バラ色の高校生活をおえて、また別れる級友達の方々、大学へと進まれる高校生の方々、何事にも恵まれた明日に向かって歩いて下さい。我々は三年生の力が、残されていった勝ある伝統を、保ち続けるためにもがんばっていきたいと思っております。たまには、この県声の校門をくぐって入ってきて下さい。その時は私達は喜んで卒業生の方々を迎えることでしょう。この三年間で経験したことが、社会または大学で役に立てばよいことだと思っております。

最後に、本当に卒業おめでとうございます。

"賞をうける人々"

今年度の受賞者は次の通りである。

※級行委員会（9名）
有本　靖則、寺本　敦子
金森　遊之助、高谷　光彦
若林　利彦、首藤　靖則
勝山　みどり、堀崎　充彦
児玉　昌平

※指導部員（4名）
中村　和行、植松　安史
松本　郁男、森　治彦

※指導委員会（20名）
長沢　一孝、柴田　勝子
竹内　康子、宮島　三代
勝山　みどり、高谷　光彦
若林　利彦、首藤　靖則
堀崎　充彦、上野　いつみ
若林　利彦、野口　徹
山辺　公子、首藤　靖則
有本　靖則、木田　弘美

※代議員会長（2名）
木田　弘美、野口　徹

※二年連続代議員（3名）
神足　美智子、荒井　代子
吉田　亘

※代議委員会（3名）
岡部　秀夫、堀谷　悦郎
秤内　恵

※選挙管理委員長（1名）
松本　郁男

※代表団（1名）
藤井　勇弘

―書記外局―

※放送部（6名）
西川　玲子、谷　千鶴子
小篠　潤、堀本　明美
阿部　真理、松野　裕子

※図書部（7名）
加藤　登子、内藤　真知子
福島　和子、文　節子
福井　代子、中谷　保子
谷垣　知栄子、鈴鹿　ゆり

※出版部（7名）
竹内　康子

―運動部―

―文化部―

生研（5名）
物研（3名）
化研（3名）
地研（4名）
史研（4名）
食研（6名）
渡研（3名）
映研（3名）
鉄研（3名）
落研（3名）
文芸（4名）
書道（7名）
美術（8名）
写真（4名）
筝曲（5名）
調剤（5名）
華道（10名）
茶道（9名）
コーラス（11名）
吹奏楽（9名）
ESS（3名）

―運動部―

軟野（3名）
庭球（4名）
蹴庭（8名）
蹴庭（14名）
陸上（7名）
水泳（6名）
山岳（7名）
卓球（3名）
柔道（3名）
体操（6名）
剣道（5名）
バレー（7名）
ラグビー（7名）
サッカー（8名）
バスケット（10名）

部説　間接代議制について

つまり、一般の生徒にとって代議員会の決定は、重要な意味をもっているのではないかと思う。

現方ともある所において妥当ではないだろうか、流会続きで代議員会しかし自治会の義務の停止が必要であったとして も、代議委員会は、「代議員会をメモしてみる。

代議委員会と出て、長時間なんとなくすわって、発言事項だけ。

これは明らかに代議員の責任である。

最近、代議員会について、非常に多くの問題点が、表面にでてきているように思う。

例えば、先日の学校集会の場において、会長のアピールのメッセージを送ってみたり、さらに進んだのが代議員長の選挙である。

学校集会の壇上において出席者の悪いクラスをよみあげる。

代議員会が、定員不足による流会続き、代議員会の機能が停止してしまい、事実上自治会の活動が不可能となったからとはいえ、出席者の悪いクラスを発表し、対策をとレポートとして提出―これは、少しやりすぎではないだろうか、流会続きで代議員会しかし自治会の義務の停止が必要であったとして も、代議委員会は、「代議員会をメモしてみる。

代議委員会と出て、長時間なんとなくすわって、発言事項だけ。

これは明らかに代議員の責任である。

つまり、一般の生徒にとってくるので、一般生徒にたいする働きかけが薄れホームルームを空しく傍観するだけの存在になる。

対策委員会は、代議員長の要請、また後援会長の要請、また後援会長の要請、再発を防ぐ意味でも代議員長はもちろんのこと、一般の方々も考えていただきたい次第である。

さて、ここでこの欠席の原因をよく考えてみよう。

このマラソン大会で、苦しまそうよう。

五時からクラブ活動を中止すると校則臨時間が、非常に短くなってしまう。しかし、もし、我々の授業をすればどうだろうか。

五時間目は、はたして何人くらいいるだろうか？ほとんどの生徒は、それを知らなかった事実である。また、知っていたにせよ、五時三十分に校するころを、既学していた者はほとんどいないだろう。

とこうで、なぜ、武道校と、このような取り決めをしたかというと、五時二十分以後、我々が残っているとき、武道校の授業の妨害になるからである。前々からいわれていることに、武道校の授業中に、部活生が給湯部や、その付近でつまでも残っているので困っていて、仕方がないということがあった。これは、その典型的な一例であろう。

五時からクラブ活動を中止すると校則臨時間が、非常に短くなってしまう。しかし、もし、我々の授業をすればどうだろうか。

今まで、我々当番生は、武道校について、あまりに無神経すぎた。なんといっても、今は、武道校生の負荷にそういう思いをさせてきているのだ。やはり、少々練習不足になっても仕方ないだろう。

武道校の授業が、スムースに行なえるように、我々が設営を持って協力すれば、武道校側も、我々のクラブ活動が、より発展して行なえるように、何らかの対策を講じてくれるだろう。

今まで、我々当番生は、武道校について、あまりに無神経すぎた。なんといっても、今は、武道校生の負荷にそういう思いをさせてきているのだ。やはり、少々練習不足になっても仕方ないだろう。

武道校の授業が、スムースに行なえるように、我々が設営を持って協力すれば、武道校側も、我々のクラブ活動が、より発展して行なえるように、何らかの対策を講じてくれるだろう。

マラソン大会

一月吉日の朝より、恒例の校内マラソン大会が行なわれた。この日は天候が不安定であったため、いろいろな心配もされたが、それぞれ大きな事故（ケ）はなく、無事終了した。

コースは去年と全く同じで、男子は各学年二年が八位C組本庄公子、九位B組本庄公子、十位A組山腰敦子（一年男子）と場女共に少し長くなった。しかしそれにもかかわらず、とくに女子に好記録が続出した。去年に比べると、三十秒近く短くなっているのだ。（男子勢等で、女子もがんばっているのだから、と上位十人までの個人成績は次の通りである。

（2年男子）
一位　G組　佐奈智之　19・34
二位　A組　有本　裕　20・00
三位　J組　佐貫　秀一　20・05
四位　D組　勝井　敏　20・06
五位　C組　松坂　順一　20・08
六位　B組　中島　芳信　20・34
七位　D組　松浦　正行　20・38
八位　B組　福島　泰弘　20・40
九位　D組　原　雅彦　20・46
十位　J組　大石　慈彦　20・47

一位　D組　小川　雅子　12・45
二位　B組　岡本　順子　12・52
三位　G組　鷲尾　留子　12・59
四位　C組　沢村　友里　13・10
五位　D組　赤松　尊子　13・20
六位　D組　赤松　尊子　13・25
（一年女子）
一位　C組　朝江　悦子　12・31
二位　H組　米崎　節子　12・54
三位　J組　越智　恵江　12・58
四位　D組　河本　和子　12・59
五位　J組　青村　紀子　13・02
六位　E組　根来　智子　13・05
七位　E組　田淵　則子　13・17
八位　B組　清水　益美　13・18
九位　E組　水谷　安子　13・18

四位　E組　黒木　宮行　19・53
五位　I組　上田　敏　19・54
六位　H組　坂田　秀史　20・04
七位　G組　井上　一夫　20・22
八位　B組　今川　雅宏　20・23
九位　F組　沢田　三孝　20・31
十位　A組　小野　守　13・19

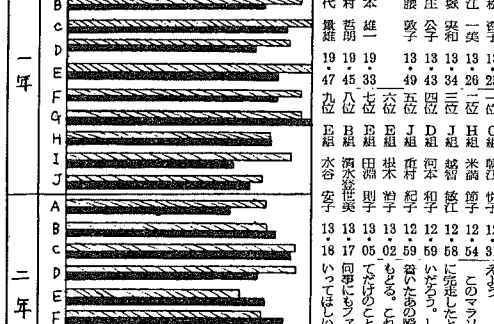
さて、左のグラフは今年のマラソン大会参加のグラフであるが、参加者は全体的に去年をはるかに上回っており、その上、好記録が続出―まことに結構な傾向である。この調子でいけば、来年にも大いに期待することができると言える。

このマラソン大会で、苦しまそうよう。

五時からクラブ活動を中止すると校則臨時間が、非常に短くなってしまう。しかし、もし、我々の授業をすればどうだろうか。

今まで、我々当番生は、武道校について、あまりに無神経すぎた。なんといっても、今は、武道校生の負荷にそういう思いをさせてきているのだ。やはり、少々練習不足になっても仕方ないだろう。

武道校の授業が、スムースに行なえるように、我々が設営を持って協力すれば、武道校側も、我々のクラブ活動が、より発展して行なえるように、何らかの対策を講じてくれるだろう。



裏表独語

武蔵高等学校と、わが県立芦屋高校の取り扱いで、わが校のすべてのクラブ活動の自由は五時まで、そして五時三〇分には、芦高生は、会場を後するというが、あらためて、はっきりと打ち出された、あらためて、というのはこの時間に関しては、すでに以前から約束されていたものだからである。しかし、クラブ活動が、五時までしか許されないということを、知っていた芦高生は、はたして何人くらいいるだろうか？

それを知らなかったに違いない。また、知っていたにせよ、五時三十分に校することを、既学していた者はほとんどいないだろう。

とこうで、なぜ、武道校と、このような取り決めをしたかというと、五時二十分以後、我々が残っているとき、武道校の授業の妨害になるからである。前々からいわれていることに、武道校の授業中に、部活生が給湯部や、その付近でつまでも残っているので困っていて、仕方がないということがあった。これは、その典型的な一例であろう。

問題残る委員会活動

今までに何回かにわたりAUSS・TTNPSで、代議員会について取りあげてきた。しかし、組織などの変革により、活動の一部しか改正することができなかった。代議員会、保健委員会が、それぞれどのような活動をしてきたかの総括の時が来たのでお伝えすることにした。

＜代議員会＞

代議員会は、前期において、記念祭が主な議題内容で、ほぼ固定化されていた。

もう、次の開会前までで、定例不足による流会、議案提出における不備、その他などによる決議不能などという、代議員会務遂行上の支障もなく、ほぼ必要な議題は果たせたと思う。

これは、議題選定の指標と、議題提出の態度とともに、議事内容において比較的簡単であったことがあげられよう。

後期代議員会は11月4日に新役員の決定があり、後期へと入っていった。

同月11日に、分科委員会の決定なさっぱなしものを目的に、イキナリ出されて、はたしてわかるのかどうか？　出席した者は、この不安をみんな感じたのである。

同26日の会議においては、代議委員会の基本事項の不備による会議の乱れをかかえたまま、後期「問題意識の低下」といった何かと考えるこの頃である。

そして11月30日　出席者数26にて流会。

12月2日　その日は指導委員会の活動報告があった。そしてその後は水カケ論のような盛経応答、飲んだけでが終っていたような感じがする。

1月21日　指導委員会応答司決定の約一カ月。指導に関するとはたいに重要な問題で、たっぷり時間をかけて当然である。しかしこの二カ月で、それに値するだけの会議ができていたか、議事進行がまずかったり、流会になったり同じ問題を何度も繰り返したり、無駄な時間が実に多かったように思う。

保健委員会が長期的に取り組んでいる公衆調査がほぼ終了したようだ。

＜保健委員会＞

保健委員会はわが校でもなくてはならない委員会だと言われながらも、問題になっている会合に取り組んでいた。

9月　公害調査（騒音調査）グランドの三カ所で、5秒毎に50回、二週間、保体の時間に測定した。結果は記念祭で発表された。

11月　公害調査（騒音調査）の個人アンケート実施。

三年から二年へ主力の移動。調査公表後に設置部においわれ、まず設置校の温度、湿度の測定……たくさんの仕事をかかえなければならない。

2月　教室移動を機に開始。中庭の環境衛生委員会で発行の阪神淡路大震災保健委員会で発行のあった「住教育」について、委員会として取りあげるかどうかを学部で話しあっている。

また、昨年十一月に行なわれた「住教育」について、委員会として取りあげるかどうかを学部で話しあっている。

とにかく仕事の多い委員会だ。

応急手当て、アンケート等の事務的な処理、公衆調査……種類の違うものを比較するのはおかしいがおそらく、この頃で振り返ってみると、この二つの委員会の中で、一番委員に負担のかかる委員会だろう。そのせいか、分科会なども特に欠席の多いもある。後期になってそんな話を保健委員が休み時間かけまわって聞かないところを見ると、委員は騒音を測定していたのも「公衆調査」のためだ。だから、この記事に関わりあるとは何倍も委員が働いていることを知ってほしい。また、委員が休みもまかせばなし。というのではなく、委員を構成として、それぞれの委員会の活動をより充実させるためにも、何度となく出てきた代議員会で問題になった自治意識の低下。美化委員会の活動のさまたげになっている。美化意識の低さ。意識についての話題が練習したりしていた。しかし、レンの音や声が、授業のさまたげになりやすい。うやむやになった結果、導入まで盛期の下に残っていたり、環境部門に残っていることや、禁止でしい、との要求があり五時半完全下校という型を取ることになった。

その後、教室建築から、これらの声は聞かれなかったが、クラブにはいっている人から「練習時間が足りない」という声をよく聞いた。運動部を例にとってみよう。三時十分に授業が終わる。三十分に授業が終わる。三十分に授業が終わる。三

寄稿

芦高三昧

田辺真人

「先生、原稿ください。」

「あれっ、まだ書いてないね。」

「そりゃなん……。困りまス。」今迄幾度かそんなやりとりをしてきたことか。締切日を過ぎてもいっこうに原稿が集まらない。

「早く書いて下さいよ。」

「ウン、歴史のことがいい。」

「いやいった。その翌日に、神戸屋の近くの喫茶店で待ち合わせをしたのだが、先生は来なかった。

「一年間の思い出が何かを。」もう旦那様がお待ちかねです。

「そこでよろしくお願いします。」

「どうするとテニスコートがありますそこを例に折れた突当りが本校ですから。」

「D組の――。」

なる程、聞いたとおりのコートに出、そこを例にまがる学校らしき建物が門のむこうに見える。

校門に向って進むうち、道の両側にも何やら校舎の様な建物がある。グラウンドの辺りは学校がたくさん集まっているな。文教地区ってわけか。これらの様々な建造物がテニスコート、体育館、パイプ教室などで、それらをすべて県立芦屋高校と称していることなど、その日はまったく知っていようはずもなかった。

芦高の二巡して驚いたことは南館の高層校舎。おりから春休みのことで生徒諸君の姿は校内にはなく、廊下の二重ガラスの窓、すばらしく近代的な教育施設とが映った。騒音公害で万巻かなくなくれらの防音に守られた授業しているの実情など、むろんその時考えてもみなかった。実はその三日前はある所に依頼されて東播磨方の鬼谷、僕は調査していたのだ。加古川の鶴林寺・鎌倉の浄土寺・姫路の書写山などを中心に墓探しをそそくったので、時には、農家の一隅からキツネにとまれを飼みすえている老人だ。

ン、歴史のことがいい。

「いやいった。その翌日に、神戸屋の近くの喫茶店で待ち合わせをしたのだが、先生は来なかった。

「一年間の思い出が何かを。」もう旦那様がお待ちかねです。

「そこでよろしくお願いします。」

「どうするとテニスコートがありますそこを例に折れた突当りが本校ですから。」

「D組の――。」

なる程、聞いたとおりのコートに出、そこを例にまがる学校らしき建物が門のむこうに見える。

校門に向って進むうち、道の両側にも何やら校舎の様な建物がある。グラウンドの辺りは学校がたくさん集まっているな。文教地区ってわけか。これらの様々な建造物がテニスコート、体育館、パイプ教室などで、それらをすべて県立芦屋高校と称していることなど、その日はまったく知っていようはずもなかった。

芦高の二巡して驚いたことは南館の高層校舎。おりから春休みのことで生徒諸君の姿は校内にはなく、廊下の二重ガラスの窓、すばらしく近代的な教育施設とが映った。騒音公害で万巻かなくなくれらの防音に守られた授業しているの実情など、むろんその時考えてもみなかった。実はその三日前はある所に依頼されて東播磨方の鬼谷、僕は調査していたのだ。加古川の鶴林寺・鎌倉の浄土寺・姫路の書写山などを中心に墓探しをそそくったので、時には、農家の一隅からキツネにとまれを飼みすえている老人だ。

ン、歴史のことがいい。

「いやいった。その翌日に、神戸屋の近くの喫茶店で待ち合わせをしたのだが、先生は来なかった。

「一年間の思い出が何かを。」もう旦那様がお待ちかねです。

「そこでよろしくお願いします。」

「どうするとテニスコートがありますそこを例に折れた突当りが本校ですから。」

「D組の――。」

なる程、聞いたとおりのコートに出、そこを例にまがる学校らしき建物が門のむこうに見える。

校門に向って進むうち、道の両側にも何やら校舎の様な建物がある。グラウンドの辺りは学校がたくさん集まっているな。文教地区ってわけか。これらの様々な建造物がテニスコート、体育館、パイプ教室などで、それらをすべて県立芦屋高校と称していることなど、その日はまったく知っていようはずもなかった。

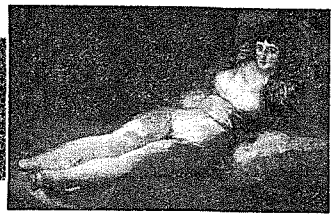
芦高の二巡して驚いたことは南館の高層校舎。おりから春休みのことで生徒諸君の姿は校内にはなく、廊下の二重ガラスの窓、すばらしく近代的な教育施設とが映った。騒音公害で万巻かなくなくれらの防音に守られた授業しているの実情など、むろんその時考えてもみなかった。実はその三日前はある所に依頼されて東播

二

初めて芦高を訪れたのは昨年三月十一日。あれからちょうど一年になる。はたして学校が、どっちに向いてどう年をかも知らず、電話で聞いたおり返事を声感から受けきれず、体とおりをしている時に教頭さんからの「どちらか、今年の一年の学年主任です。そこを例に折れた突当りが本校ですから。」

との応答。百匹士の趣深より

EL ARTE DE GOYA



※※※※※※

ゴヤ展が、去年の11月16日より今年の１月23日まで東京の国立西洋美術館において開かれた。そして、１月29日から、３月15日までは、京都の京都市美術館において開かれている。「着衣のマハ」「裸のマハ」で知られるゴヤは、スペインの誇る大画家である。では、このゴヤという画家は、はたしてどのような絵を描いているのだろうか？　出版部はさっそく、このゴヤ展の取材に出かけてみた。

※※※※※※

ゴヤ、それは神が人間世界に下した天才ではないか？　彼の作品を見ていると感動が全身を震わす。力強くのびのびとした線、色彩のみごとな調和、線のするどさなど欠点さがしといの一言につきる。そして油絵ばかりでなく、新しい感覚、言い変えるなら、私達が何の抵抗もなく受け入れられる版画、このような感覚だけの感覚でも、ゴヤの作品の中で、どんな価値をこの画が持っているかなど素人の私にはわからない。しかし強烈な印象を与える作品、無気味な内容を扱っている作品などの感覚で評価はできると思った。とにかく新しく理解しやすい画であることは間違いない。

彼の作品の中で最も有名なものの中に「着衣のマハ」と「裸のマハ」とがある。このうちの作品を見て最初に思うことは、白の美しさだろうと思う。そして光と陰、「裸のマハ」には午前の静寂が漂い、「着衣のマハ」には午前の陽の明るさ、強さがある。このような作品の違いがあるにもかかわらず、同じ人物をモデルにしているということはない。しかし、言ってもよいかもしれない。なぜなら、ゴヤの多くの肖像画、版画には貴族の女たちの姿がしっとりとうたわれ、気品ある、冷ややかな非人間的なものがあり、この作品の中にはそういったものがない。背景も雑物や木がぼんやり描かれている。

ゴヤの言葉

「自然には、色はない。線もない。あるのは、太陽と影だけである。私に本の知識をくれたまえ。それで絵を描いて見せよう。絵はすべて、線と色と個性以外のものには拠って立ちえないの語ってもらった。それによると、うである。（コンサートに、観客

墓地へ

ゴヤは多くの版画を制作した。晩年の素描集に描かれた形態に驚異の眼を見張るものがある。人物のプロポーションは初期の作品のものと非常に異なっている。これらのスケッチによる表現であった。（ゴヤ展カタログの一部より）

ゴヤの言葉

「いつも絵ばかりを熱心し、探しているが、それでは絵とはいえない。しかし、それとかかりあって生きているという事実にもとづく真実味なのである。

ゴヤの晩年に描かれた「黒い絵」ということば、そして彼ナポレオン戦争後、ゴヤの生活は、明らかに、まずまず孤立化し、戦争後絵画人の愚かしさ、フェンテデトドスに生まれた。彼の国家としての人生は、一七八〇年にサラゴッサの画家、ホセ・ルサンのもとで修業した時代から、四年以来アロンに出品、七四年に国展に出品し、以来